

第 52 回放射線化学討論会を終えて

平成 21 年 9 月 24 日 (木) ~ 26 日 (土) 福井工業大学福井キャンパスにおいて第 52 回放射線化学討論会が開催された。本討論会に関していくつかの事柄を記述しておこうと考え紙面をいただいた。

平成 20 年 10 月に開催された第 51 回放射線化学討論会 (つくば) において正式に開催が決まった後準備にかかった。福井県における放射線化学討論会の開催は初めてのことであった。会場は、福井工業大学福井キャンパスの講義室とした。開催日は大学事務局のアドバイスにより大学が夏休み期間中である 9 月開催が良い事がわかり、実行委員である金沢大学高橋憲司先生と共に検討を行い 9 月 24 日 (木) ~ 26 日 (土) の 3 日間に決定した。

討論会開催に関して、実施規定や実施マニュアルが存在すると思っていたが、規定やマニュアルらしきものは存在していなかった為、第 50 回 (京都)、第 51 回 (つくば) における実施結果を模範として計画を立てた。各討論会における参加者数や懇親会参加者数、予稿集の印刷部数等の情報は各討論会事務局の責任者であった柴田裕実先生、小林慶規先生より直接伺った。

実施テーマは「放射線化学の基礎、応用及び関連分野の研究発表を行います。関連分野には、原子力、放射光化学、レーザー化学、プラズマ科学、原子分子衝突、加速器科学、陽電子科学などの学際領域に加えて、ナノテクノロジー、高分子科学、分子科学、デバイス物理などと放射線化学との境界領域を含むものとします。」とし、関連分野に原子力を新たに加えた。

当初テーマを決めるにあたり、内容を広くすると参加者の専門性の重なりが薄くなるため、討論会には向かないように感じたが、放射線利用の立場から考えると、多様な領域の方々が集まらないと、放射線化学を議論する事が困難であると考えた。

今回、討論会事務局を引き受けたことにより、私自身が本学会の存在意義や討論会開催の意義を見つめ直す機会となった。特に、討論会開催の経緯が知りたくなり「放射線化学の歴史と未来 -30 年の歩み-」を手元に置き、記載内容を確認した。第 1 回の放射線化学討論会は 1958 年 11 月 22 日に東京工業大学において開催され、その時のテーマは「有機化合物の放射線化学」であり、発表数は 13 件であった。その後、1965 年 11 月 13 日に日本放射線化学会が創立した。学会誌「放射線化学」第 1 巻第 1 号は 1966 年 3 月に発行された。

討論会の準備は①日程②会場③電子メールアドレス取得④ホームページ製作の順で行った。特に②~④は学校法人金井学園 (福井工業大学) 理事長金井兼先生の全面的な協力により、全て無料で提供していただいた。また、4 月に福井大学へ着任された泉佳伸先生に実行委員会へ参加していただき、討論会開催に関する計画の立て方や共催、協賛、後援等多くのことを助けていただいた。

本討論会への参加者数は 101 名、懇親会参加者は 76 名であった。参加していただいた方々に深く感謝したい。参加申込期間中、毎日電子メールを確認することが楽しみであったことを思い出す。

プログラムは、以下の 5 点を基に組んだ。

1. 発表形式は口頭形式とポスター形式の 2 種類
2. 開催期間は 3 日間
3. 2 日目の午前中に総会、夕方に懇親会
4. 2 日目、3 日目午後 to 受賞講演 (1 件の場合 2 日目開催)
5. 口頭発表は発表 10 分質疑応答 5 分

尚、本討論会において依頼講演、特別講演、シンポジウム、追悼講演を実施した。

プログラムを組むにあたり、口頭発表 20 分質疑応答 10 分にできないかと試行錯誤したが、発表件数を減らさねばならない可能性があったため諦めた。尚、口頭発表の件数は、第 50 回 (42 件)、第 51 回 (40 件)、第 52 回 (43 件) とほぼ 40 件である。

発表の順番は予稿原稿を自宅に持ち帰り、酒を片手に衆議院選をテレビでみながら 1 人でいっきに決めた事が思い出される。

最後に、特別講演において「放射線化学基礎研究における課題と将来への展望」の演題でご講演いただいた篠野嘉彦先生、依頼講演において「大型クラゲから見つかった新物質クニウムチンの可能性：高齢者医療からナノテクノロジーまで」をご講演いただいた丑田公規先生、井口先生の追悼講演において講演された勝村庸介先生、篠野嘉彦先生、高橋憲司先生、シンポジウム「福井県における原子力・放射線利用」において登壇していただいた、竹田敏一様、岩永幹夫様、来馬克美様、酒井和夫様、佐久間実様、中安文男様に対して、快くお引き受けただけなことに関して感謝したい。また、実行委員として私と共に実行委員会を運営していただいた辰巳佳次先生をはじめ多くの先生方に感謝したい。

(福井工業大学 砂川武義)